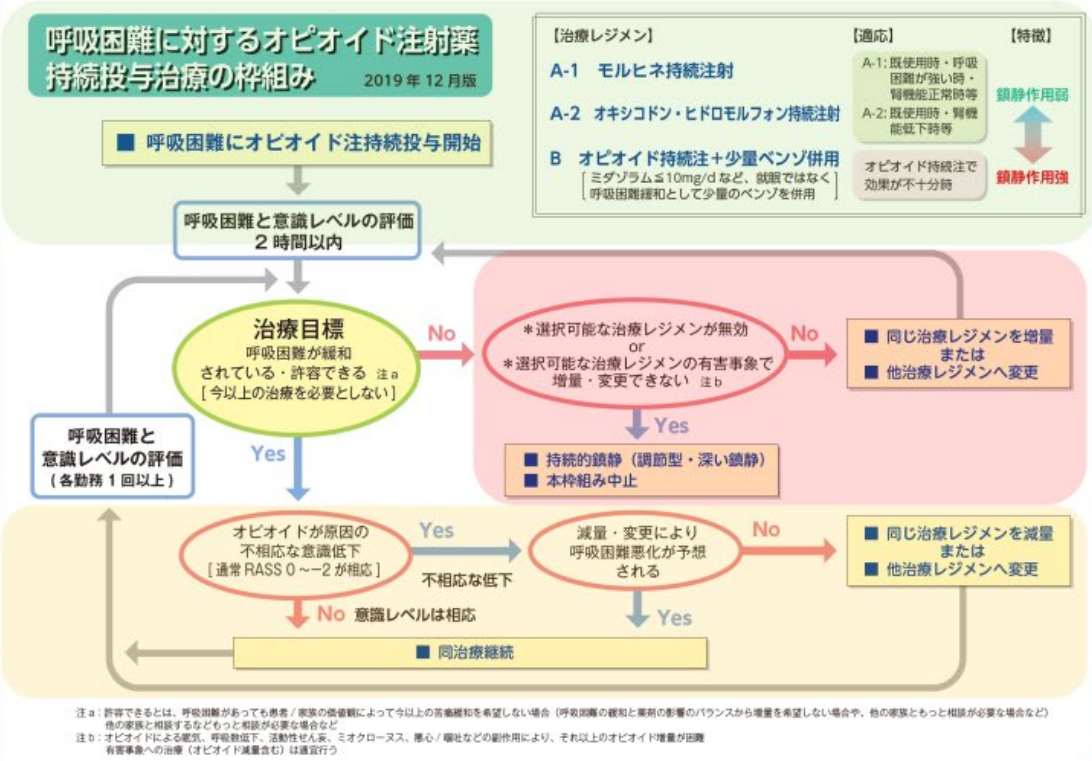
治療アルゴリズムと包括的ケアの実際

- 先行薬や腎機能によりオピオイドを選択
- 一定量のオピオイド使用でも症状持続なら少量ベンゾジアゼピン系薬併用を検討。
- 個別化目標（Trade-off)の共有）の共有
- 希望（心残り）の確認と支援の計画

治療目標達成

オピオイドによる不相応な意識低下：

- 無→同治療継続
- 有→減量/変更により症状悪化が予想されれば同レジメン継続；予想されなければ減量/他治療レジメンへ変更



治療目標未達成時

- 同レジメンを増量
- モルヒネに変更（腎機能正常時）
- ミダゾラム持続注≦10mg/日など少量ベンゾジアゼピン追加（オピオイド未使用でMEDD注 24-36mg/日、既使用で開始量の50%増量時）

上記無効/使用困難時

- 原因の対処再検討
- 非薬物ケア見直し
- 緩和ケアチーム相談
- 持続的鎮静施行

- 経過を通じて治療・ケアの効果の評価を行い、患者・家族・医療者間で状況を共有
- その時々の患者・家族の意向や目標に沿った治療・ケアの継続・変更
- 希望を叶える支援と意思決定支援